



平林金属株式会社様に対する

『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』第2回モニタリングの実施について

百十四銀行（頭取 森 匡史）は、2023年6月30日（金）に実行した大元支店取引先 平林金属株式会社（岡山県岡山市北区下中野 代表取締役 平林 実）向け『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス（※1）』に対し、2回目のモニタリングを実施しましたのでお知らせします。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスにおけるモニタリングでは、融資実行時に発行したポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書に掲げる、お客さまのマテリアリティ（重要課題）を解決するための取組方針と、その達成度合いを測定する KPI（重要目標達成指標）に対し、進捗状況の確認と、KPI 達成に向けた各種支援を実施します。本件モニタリングを通じて、お客さまのサステナブル経営を一層推進します。

当行は、今後も地域金融機関として、お客さまの SDGs や ESG への取組みを支援してまいります。

（※1）お客さまの企業活動が経済・社会・環境にもたらすインパクトを包括的に評価し、ポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの緩和に向けた取組みを支援する融資。当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制については、株式会社格付投資情報センターより、国連環境計画・金融イニシアティブ『UNEP FI』が制定したポジティブ・インパクト・ファイナンス原則に適合している旨のセカンドオピニオンを取得している。

記

■企業の概要

会 社 名 平林金属株式会社
所 在 地 岡山県岡山市北区下中野 347 番地 104
業 種 総合リサイクル業

【サステナブルな取組み】

『資源の有効活用』が、当社に課せられた地域環境保全に貢献できる最大の使命と認識し、主業である金属の再資源化をはじめ、さまざまな資源のリサイクルを推進します。サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラル等に関連したプラスチックリサイクルの機運も高まっており、プラスチックの再資源化により脱炭素化社会の実現に向けた取組みを強化することで、環境保全に貢献してまいります。

『MOTTAINAI、ARIGATAI』をキャッチフレーズに、太陽光パネルのリサイクル技術研究や、中四国唯一の家電リサイクルプラントにおける家電の再商品化、全国初の有人型資源集積システム「えこ便」の展開など、不法投棄・違法回収の低減と、循環可能型社会の形成に向けた取組みを行っています。

※平林金属株式会社の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス第2回モニタリング報告書」については、別紙をご参照ください。

以 上

平林金属株式会社

ポジティブインパクトファイナンス

第2回モニタリング報告書



2025年6月30日



いい出会い ふくらむ未来
百十四銀行

目次

1. 平林金属株式会社の企業概要	1
2. 目標達成に向けた進捗状況	2
3. 総評	3

1. 平林金属株式会社の企業概要

企業名	平林金属株式会社
創業	昭和31年10月
設立	昭和35年7月16日
代表者名	代表取締役社長 平林 実
資本金	9,980万円
従業員	429人（令和6年12月末）
売上高	206億円（令和6年12月期）
事業拠点 （山陽地域の 主な拠点）	本社（岡山県岡山市北区下中野347-104） 岡山工場（岡山県岡山市北区下中野406-1） 岡山東営業所（岡山県岡山市東区寺山33-1） 港工場（岡山県岡山市中区新築港1-22） 水島工場（岡山県倉敷市水島西通1-1920） 山陰工場（鳥取県米子市旗ヶ崎2315） リサイクルファーム御津（岡山県岡山市北区御津高津120-13） 西大寺工場（岡山県岡山市東区西大寺新地108-5） 玉島物流センター（岡山県倉敷市玉島乙島字新湊8259-5）
事業内容	鉄・非鉄金属及び使用済み家電・自動車のリサイクル事業 ＜グループ企業＞ 株式会社ヒラキン ヒラキンテック株式会社 ヒラキン興産株式会社 株式会社ヒラキンブライト 葉豆瑠農園株式会社（瀬戸内市前島地区での農業事業） たからさがし株式会社（就労継続支援A型事業所）

2. 目標達成に向けた進捗状況

項目	内容
インパクト	カーボンニュートラルの達成とサーキュラーエコノミーの実現
対応方針	・加工・選別技術を他社へも提供し、プラスチックやガラスのリサイクル技術を底上げする ・カーボンニュートラル素材である再生鉄鋼材料の流通を促進する ・他業種と連携し太陽光パネル再生材料の用途開発を実現する
KPI	2030年までに硬質プラスチック回収量年330トンを目指す 2040年までに他業種と連携し太陽光パネル再生材料の用途開発を実現する
KPI進捗状況	前年のレイアウト変更に伴う選別工程の見直しにより、回収効率が上昇中 2025年内にはライン改造（手選別→風力選別）を行い、更なる回収量上昇を見込む 岡山大学との共同研究でリサイクルを阻害する微量添加元素の除去をラボベースで実験中 業界団体内に委員会を立ち上げ、パネルリサイクラーの課題共有及び共同開発調査を開始

項目	内容
インパクト	食の流通事業・農業(作物栽培)・福祉事業の深化
対応方針	・残留農薬ゼロ野菜を自社プラットフォームを活用して販売していく ・農業にバックグラウンドを持つ人を雇用する ・就労継続支援A型事業所への仕事創出と人手不足へのマッチングを行う
KPI	2030年までにたからさがし(株)からの一般就労移行を7人を目指す
KPI進捗状況	2025年4月末時点で累計3名（2024年度1名）の一般就労移行が完了 今後も1年に1名を目安に一般就労移行予定 ワークフォーラムや他社見学会に参加し、グループ内に留まらず他社への一般就労移行も実施

項目	内容
インパクト	国内外の貧困問題へのアプローチ
対応方針	国内NPO法人と協力をして、コーヒーの栽培に従事するネパールの農家へ栽培方法の指導と販売ルートの確立に取り組む
KPI	2030年までにコーヒー豆年間流通量4,500kgを目指す
KPI進捗状況	2024年12月期の年間流通量は3,840kg ネパールでの精選方法改良と輸送方法の適正化によりコーヒー豆の品質が大幅に改善 現地での雇用も増中 オフィスコーヒー定期購入は50社を超え、堅調に拡大している コーヒー豆の詳細は こちら

項目	内容
インパクト	生涯スポーツであるソフトボールのさらなる発展と障がい者アスリートへの支援
対応方針	・障がい者アスリート（走り高跳び、軟式野球）の応援 ・男女ソフトボール・軟式野球選手の応援 （ソフトボール・軟式野球チームの運営、選手の雇用） ・スポーツ推進課の活動継続 （ライズカップ、プロスポーツ教室、地域のソフトボール教室への協力）
KPI	・ソフトボール、軟式野球チームの強化と選手の雇用促進 ・スポーツ教室の開催継続と地域との連携強化
KPI進捗状況	ソフトボール選手が複数名引退したが、現場作業員・営業社員として3名継続雇用 男女ソフトボールチームに新メンバーが4名加入し戦力をさらに高め、地域を代表するプロスポーツチームとして好成績を狙っていく

項目	内容
インパクト	女性社員の活躍機会拡大
対応方針	・機械化等により、性差やフィジカルに囚われないサイクル業務を推進する ・業務内容の見直しや新規事業の体制強化を行い、柔軟な勤務体制・内容を創出する
KPI	2030年までに「現場女子」を3人にする（女子ソフトボール選手を除く）
KPI進捗状況	えこ便事業部を除き6名の女性社員が現場作業に従事している 2025年4月は女性新入社員9名入社。女性目線の現場改善を進めている 男女賃金格差を解消（総合職と一般事務職の基本給差を解消）し、環境・待遇を改善しており、2025年度は更に女性社員の増員を予定

3. 総評

早期達成済みの目標もあり、インパクトへの取組みは全体的に活発である。特に硬質プラスチックの回収技術の確立については、分解・選別が重要となるが、目的に応じた分解・選別ラインを構築している。それにより、鉄はもちろんのこと、非鉄金属は銅・アルミ・ステンレスなどグレード毎に30種類以上、プラスチックもPP・PS・ABSなど材質や色別に30種類以上に細かく選別を行っている。徹底した分解・選別ラインの構築がヒラキンブランドの確立となっており、硬質プラスチックの回収量増加に繋がっている。社会的にも重要な環境課題であることから早期のKPI達成が求められるが、着実に実績を上げていることに加え、2025年内には風力選別ラインの構築も予定されており、早期達成による環境課題解決への道筋が見えてきている。

コーヒー豆の販売についても、法人の定期購入契約が50社を超え、販路拡大されている。収量増加に合わせて、現地の雇用も増加しており、サステナブルな国際貢献の形が形成されている。

以上のことから環境関連のNI縮小、包括的で健全な経済のPI拡大が実績として表れている。

現場への女性社員の採用・登用についても、2名増員されている。女性目線の職場改善を進めており、その一環で男女賃金格差を解消し、環境面・待遇面での改善を図り、2025年4月は女性新入社員が9名入社している。引き続き、負荷軽減とイメージ向上の効果もあり、現場への女性社員の登用がさらに進んでいく兆しがみられる。

百十四銀行も、コーヒー豆や再生後のガラスパネルのビジネスマッチングを通じた販路開拓支援、人事評価制度策定支援や広告媒体の紹介を行い、当社のマテリアリティへの取組みをさらに加速させていきたい。